

岡山県立和気閑谷高等学校学校運営協議会 ー第1回会議 議事録ー

日時：令和2年6月29日（月）13：30～15：00 場所：県立和気閑谷高校管理棟3階会議室

1 開会・校長挨拶

学校の近況（休校中のオンライン授業）、学校経営、350年記念事業について

2 委員紹介

3 会長・副会長の選出

会長 和気町長 草加委員、副会長 備前市長 田原委員 及び 赤磐市長 友實委員

4 協議会の組織、運営計画

- 学校運営協議会から県教委への2点（教育課程の編成、学校運営方針の実現に資する職員の任用）の意見具申について

- 協議会の組織、運営計画について

- 小中高接続部会、産学官連携部会、高大接続部会の昨年度報告と今年度方向性について

5 協議

(1) 今年度学校経営計画・予算と次年度教育課程について

- 学校経営計画、予算、教育課程の説明

- 協議

- ・協働探究系は大学入試にも対応できると思うが、特別進学系も学力ではなく、幅広い体験を通した学びを考えているのか。それとも学力重視の一般入試を目指しているのか。

（回答）探究活動は本校に根付いた活動である。実績・実態としては本校の現在の探究学習と切り離して進学実績を考えることは無駄が多い。日々の総合的な探究の時間で培った探究的な学びを蓄積したポートフォリオをもって大学進学に生かしたいと考えている。

- 承認 今年度学校経営計画・予算と次年度教育課程について承認された。

(2) 学校設定教科「地域協働探究」の在り方について

- 「地域協働探究」の説明

- 協議

- ・受入先開拓について、行政側（和気町）であれば総務課に問い合わせをしてもらえば対応できる。

- ・中学校の職場体験は直接独自に事業所に働きかけをしている。

（回答）現在は、商工会やハローワークを通して趣旨説明とお願いの文書を渡し、受入可能な事業所へは出向いて説明に行く体制である。

- ・依頼の声掛けは教育委員会や市長の秘書課へ。声掛けをすることがまず大事。ほかの分野でも提案することもできる。

- ・学校存続危機のなかでこの授業を画期的なものにしなければならない。町全体が学校だというような意識を大人全員が持つことが大事だ。

- ・中学校は地域を挙げて育てる体制になっている。地域で支援をすることはできる。

- ・地域で、この時期になったら和気高の子たちが事業所に来る、ということが定着することによって、学校の特徴を知ってもらうようなことを大々的にやっていったほうがよいのではないかと。

- ・まず、和気高を受験していただける体制を作らなければならない。保護者としては各々がどのような学びをしているのかわからないので説明会等できちんと伝えてほしい。

- ・デュアルシステムカリキュラムは重要だが、生徒の負担が大きいと感じた。先生への負荷もかかる。また、学校にとって都合の良い地域の利用の仕方になってはいけない。配慮を。

（回答）普通科は20人を特別進学系、60人を協働探究系として打ち出していく。令和5年度以降は60人が週1日終日実習という負荷をかける。40人のキャリア探求科についてもどうするかを考えている。大切なのは一人ひとりを伸ばしていくことであり、働くこと、視野を広げること、力をつけることのバランスを踏まえどんなプログラムにするのか考えたい。

- その他意見

- ・特別進学系のカリキュラムでは、探究的な学びはできないように見える。ある程度相互乗り入れをしないと実現できないのでは。

（回答）探究は「閑谷學」の中だけではなく、各授業の中でも行う。

- ・授業に探究的な要素を入れるのではなく、地域の中で学び、その体験や実績をもって進学につなげることが弱くなるのではないかと心配している。

（回答）いただいたご意見を踏まえて、進路に結び付けていけるようにしていきたい。

6 事務連絡

7 閉会